当院デイケアにおけるリワークプログラムの実践 -既存のデイケアの中でリワークプログラムを運営すること-

○ 剣持慈子，池沢佳之
ハートクリニック

【発表要旨】

当院のリワークプログラムは2010年11月に稼働を開始し、およそ14年が経過した。当院では、2003年より、小規模デイケアを開設しており、既存のデイケアの中でリワークプログラムを実施する形態で稼働を開始し、以後、その形態を維持して運営を継続している。

現在、うつ病リワーク協会の施設認定基準では医療リワークは、「リワークプログラム以外のプログラムが同時に行われている医療機関において、リワークプログラムが独立して運営されている」ことが求められている点を鑑みると、当院の運営方法は、純粋なリワークプログラムとしては、改善の余地のある運営形態と言えるかもしれない。

しかしながら、物理的な問題、人力的な問題などから、現状では、運営形態の変更を図ることは困難であるという現実的な事情もある。現在、リワークプログラムを実施している施設の中には、類似の事情から、なかなかリワークプログラムを独立させることが困難な施設もあるのではないかと考える。

14年間という比較的まとまった期間、中断することなくプログラムを運営する中で、既存のデイケアの中でリワークプログラムを実施することで発揮されたと思しき治療効果も多く目の当たりにしてきた。

筆者は、こうした効果を生む要因として、“パラレルな場”としてのデイケアと、“凝集性を高めた、明確な目的を持った集団”であるリワークプログラムのそれぞれの利点がうまく融合された結果であると考えている。

本発表では、当院リワークプログラムの14年の実践を振り返るとともに、既存のデイケアの中でリワークプログラムを運営することで生じたと考えられる利用者の変化の実際例を示したい。

既存のデイケアの中でリワークプログラムを運営するという形態をとりながら、利用者の治療に寄与できる可能性を示せば幸いである。